

平成28年度第3回

長洲町

総合教育会議記録

平成28年度第3回長洲町総合教育会議

○日 時

平成28年12月7日(水) 午前10時00分～午前11時25分

○場 所

長洲町役場3階大会議室

○出席者(5名)

町 長	中 逸 博 光	教 育 長	松 本 昇
教育長職務代理者	大 山 司 朗	教 育 委 員	木 下 信 博
教 育 委 員	田 中 伏 美		

○説明補助員(4名)

まちづくり課長	田 成 修 一	福祉保健介護課長	吉 田 泰 滋
子育て支援課長	山 本 明 子	子育て支援課長補佐	中 山 健 一

○事務局(9名)

副 町 長	竹 本 康 美	総 務 課 長	田 畑 道 尋
総務課長補佐	杉 浦 親	学校教育課長	藤 井 司
学校教育課長補佐	松 林 智 之	生涯学習課長	長 田 修
生涯学習課長補佐	荒 木 功	総務課総務係長	長 尾 恒 心
総務課総務係主査	五十嵐 史 紘		

○関係者(13名)

六栄小学校長	根 本 まり子	腹赤小学校長	高 森 秀 一
長洲小学校長	松 永 光 親	清里小学校長	城 祐 治
腹栄中学校長	福 島 英士郎	長洲中学校長	高 木 徹
長洲町PTA連合会会長	藤 末 保 典	長洲町子供会連合会会長	高 松 孝 二
日本野鳥の会会員	迦 統 美陽子	長洲町駐在員会会長	土 山 和 治
長洲町青少年育成町民会議会長	福 田 了 栽	学童保育主任	上 田 繁 美
放課後子ども教室コーディネーター	増 村 公 子		

議事次第

1 開会

- 2 主催者挨拶
- 3 協議・調整事項
 - (1) 寺子屋塾及びふるさと塾の今後の展開について
 - (2) その他
- 4 平成28年度第4回長洲町総合教育会議について

【司会（杉浦総務課長補佐）】 おはようございます。ただいまより平成28年度第3回長洲町総合教育会議を開会いたします。

それでは、まず開会に当たりまして、主催者であります中逸博光長洲町長よりご挨拶を申し上げます。

【中逸町長】 皆様、おはようございます。ほんとうに今日は朝早くから、また大変お忙しい中、平成28年度の第3回総合教育会議にご出席を賜り、まことにありがとうございます。また、委員の皆様並びにアドバイザーの皆様におかれましては、常日頃長洲町の教育行政にご尽力をいただいております。ほんとうに皆様、ありがとうございます。

これまで第1回、第2回と、学校の危機管理並びに子育て世代総合支援センターについて委員の皆様と意見交換をさせていただき、長洲町の教育の方向性がより明確になってきたのではないかと感じているところでございます。

今回、第3回の会議におきましては、ながす寺子屋塾並びに長洲ふるさと塾について、現状分析を行うとともに、さらなる子供たちの健全育成を図るためにはどのようにしたらよいか、委員の皆様や今回会議に出席されましたアドバイザーの皆様よりご意見を頂戴したいと考えております。

現在、寺子屋塾におきましては、今年度、清源寺区公民館においてモデル事業を実施しており、多くの子供たちが学んでおります。また、ふるさと塾におきましても、それぞれの校区の介護予防拠点施設を活用し、地域の方を先生に招いて、長洲町の自然などに触れ、学んでおります。

町では、今後も引き続き、これらの事業をより充実したものにするため、現在、準備しております人材バンクなどを活用し、町民の皆様が先生になり、多様な学習活動につなげていけないかと検討しておるところでありますので、委員並びにアドバイザーの皆様の忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

また、冬休みには、地中熱を活用しました空調システムの工事が始まります。二酸化炭素排出抑制のみならず、花粉症やPM2.5にも効果があると言われております。ぜひ皆さまも完成した折にはごらんになっていただきたいと考えているところでございます。

最後になりますが、委員の皆様との意見交換を通じて長洲町の教育がより充実したものとなることを祈念申し上げまして、挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願い申し上げます。

【司会（杉浦総務課長補佐）】 今回は、各種関係団体の皆様にご参加していただきお

りますので、開会に当たりまして、総合教育会議の委員、そして今回ご参加いただいておりますアドバイザーの皆様のご紹介をさせていただきます。

長洲町総合教育会議委員で議長の中逸博光長洲町長です。

【議長（中逸町長）】 よろしくお願ひいたします。

【司会（杉浦総務課長補佐）】 同じく委員の松本昇教育長です。

【松本教育長】 はい。おはようございます。よろしくお願ひいたします。

【司会（杉浦総務課長補佐）】 同じく委員の大山司郎教育委員です。

【大山委員】 よろしくお願ひします。

【司会（杉浦総務課長補佐）】 同じく委員の木下信博教育委員です。

【木下委員】 よろしくお願ひします。

【司会（杉浦総務課長補佐）】 同じく委員の田中伏美教育委員です。

【田中委員】 よろしくお願ひします。

【司会（杉浦総務課長補佐）】 同じく委員の隈部壽明教育委員です。隈部委員につきましては、所用につき本日欠席されております。

続きまして、町内の小中学校の校長先生をご紹介します。

根本まり子六栄小学校長です。

【根本六栄小学校長】 よろしくお願ひします。

【司会（杉浦総務課長補佐）】 高森秀一腹赤小学校長です。

【高森腹赤小学校長】 よろしくお願ひします。

【司会（杉浦総務課長補佐）】 松永光親長洲小学校長です。

【松永長洲小学校長】 よろしくお願ひします。

【司会（杉浦総務課長補佐）】 城祐治清里小学校長です。

【城清里小学校長】 よろしくお願ひします。

【司会（杉浦総務課長補佐）】 福島英士郎腹栄中学校長です。

【福島腹栄中学校長】 よろしくお願ひします。

【司会（杉浦総務課長補佐）】 高木徹長洲中学校長です。

【高木長洲中学校長】 よろしくお願ひします。

【司会（杉浦総務課長補佐）】 続きまして、今回、ご参加いただきましたアドバイザーの皆様です。

長洲町PTA連合会会長の藤末保典様です。

- 【藤末長洲町PTA連合会会長】 よろしくお願ひします。
- 【司会（杉浦総務課長補佐）】 長洲町子供会連合会会長の高松孝二様です。
- 【高松長洲町子供会連合会会長】 よろしくお願ひします。
- 【司会（杉浦総務課長補佐）】 長洲町駐在員会会長の土山和治様です。
- 【土山長洲町駐在員会会長】 よろしくお願ひします。
- 【司会（杉浦総務課長補佐）】 長洲町青少年育成町民会議会長の福田了裁様です。
- 【福田長洲町青少年育成町民会議会長】 よろしくお願ひします。
- 【司会（杉浦総務課長補佐）】 日本野鳥の会、長洲支部、迦統美陽子様です。
- 【迦統日本野鳥の会会員】 よろしくお願ひいたします。
- 【司会（杉浦総務課長補佐）】 学童保育、六栄小学校、主任、上田繁美様です。
- 【上田学童保育主任】 よろしくお願ひします。
- 【司会（杉浦総務課長補佐）】 放課後子ども教室コーディネーターの増村公子様です。
- 【増村放課後子ども教室コーディネーター】 よろしくお願ひします。
- 【司会（杉浦総務課長補佐）】 また、事務局から副町長の竹本康美です。
- 【事務局（竹本副町長）】 よろしくお願ひします。
- 【司会（杉浦総務課長補佐）】 総務課長の田畑道尋です。
- 【事務局（田畑総務課長）】 よろしくお願ひします。
- 【司会（杉浦総務課長補佐）】 学校教育課長の藤井司です。
- 【事務局（藤井学校教育課長）】 よろしくお願ひいたします。
- 【司会（杉浦総務課長補佐）】 生涯学習課長の長田修です。
- 【事務局（長田生涯学習課長）】 よろしくお願ひいたします。
- 【司会（杉浦総務課長補佐）】 残りの職員につきましては名簿のほうをご確認ください。
- 【議長（中逸町長）】 子育て支援課長の紹介を。
- 【司会（杉浦総務課長補佐）】 子育て支援課長の山本明子でございます。
- 【山本子育て支援課長】 どうぞよろしくお願ひいたします。
- 【司会（杉浦総務課長補佐）】 以上で紹介を終わらせていただきます。皆様、本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、早速ですが、本日の次第3にございます協議・調整事項となります。

長洲町総合教育会議運営規約第2条におきまして、町長が議長となることとなっておりますので、これからは町長に議事の進行をお願いいたします。

【議長（中逸町長）】 改めまして、おはようございます。本日の協議事項であります寺子屋塾、ふるさと塾の展開について、委員の皆様、そして関係者の皆様のご意見をいただくために議題とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

まずは、寺子屋塾、ふるさと塾について、事務局の学校教育課から説明をお願いいたします。

【事務局（藤井学校教育課長）】 それでは、私、藤井のほうから説明させていただきます。資料につきましては、お手元に配付のクリップどめの資料、まずこちらの4枚目、5枚目についてご説明させていただきます。着座にて説明させていただきます。

まず、ながす寺子屋学習塾でございますが、放課後に地域の公民館を利用し、学力が低下傾向にある児童ですとか、さまざまな事情により家庭での学習習慣が身につけていない児童などを対象に学習支援を実施するものでございます。

今年度につきましては、モデル事業としまして、腹赤小学校の高学年、4年生から6年生を対象に希望者を募りまして、6月から、清源寺区の公民館におきまして、毎週木曜日の放課後4時30分から6時30分までの2時間、実施しているものでございます。

学習指導につきましては、県内におきまして、予備校や不登校、引きこもり支援のためのフリースクールや若者サポートステーションなどを運営されておりますNPO法人に委託しておりまして、毎回2名の指導者に算数や宿題を中心に指導をいただいております。なお、夏休みには、3回ほど、タブレット端末を利用した学習も行っております。

現在、この事業に登録していただいております児童は、下のほうに書いておりますとおり31名でございます。対象学年の4年生から6年生の児童のうち3分の1が登録しており、特に6年生につきましては、半数の16名が登録しているところでございます。さらに、毎回29名前後の参加がございまして、子供たちも真剣に取り組んでいる姿が見受けられます。

また、事業開始後、5カ月が経過したあたりで、参加児童の保護者の皆さんに対しましてアンケートをとりまして、子供たちの様子にどのような変化が見られたかをお聞きしましたところ、回答された20名のうち8名の方からは、学力が伸びたという声をいただいております。3名の方からは、自分から進んで勉強するようになったというご意見もいただいております。

さらに、ご指導をいただいておりますNPO法人の講師の方からのご意見といたしましては、週1回の学習会でございますけれども、自発的に質問することが増えたとか、計算が

早くなるなど、効果が出ているように感じられると。また、何よりうれしいのは、学習に対する自信がついた子供たちがいると。難しい問題にも取り組んでいる姿が見受けられますということでご意見をいただいております。

なお、この寺子屋学習塾につきましては、今年度の成果を検証いたしながら、来年度は全小学校区への拡大実施を予定しているところでございます。

続きまして、次のページをめくっていただきますと、長洲ふるさと塾についてでございます。こちらの事業につきましては、昨年度、平成27年度から実施しておりますが、町内四つの小学校の児童を対象といたしまして、夏休みや冬休みの期間中に校区内の公民館や介護予防拠点施設を会場といたしまして、地域の方々を指導者にお招きしまして、「学ぶ」「遊ぶ」「育む」をテーマにさまざまな体験活動を通して郷土を愛する心を育み、さらには世代間交流を深め、ひいては地域の活性化を図っているものでございます。

今年度につきましては、各校区で10回程度を目標に実施することとしておりまして、既に夏休みに実施いたしました活動については下のほうに掲載しております。

六栄校区につきましては、向野公民館において、写真に紹介しておりますようなNPO法人のスローすてっぷの皆さんのご指導によりますパステルアートですとか、そのほかに昆虫採集、読み聞かせ、ALTによる英語活動、木工のものづくりなどを行いまして、さらにお楽しみとして、スイカ割りや流しそうめんなどを行いました。延べ約140人の子供さんが参加しております。

腹赤校区におきましては、清源寺公民館を会場といたしまして、写真にあります婦人会のご指導によります郷土料理教室、そのほかにレクリエーションやパステルアート、お金の教室が行いましての貯金箱づくりなどを行っており、延べ約210人の参加がっております。

長洲校区につきましては、磯町区の磯の館を拠点といたしまして、本日ご出席の木下教育委員のご指導によります科学遊びですとか、貝殻や木工などのものづくり、英語活動、写真では野鳥の観察を行いました。本日ご出席の辻様をはじめ野鳥の会の皆様にご指導をいただき、実際に海岸や河川での観察も行っております。延べ約110人の参加がっております。

清里校区におきましては、梅田公民館を会場といたしまして、長洲町の歴史について学んだり、まが玉や木工などのものづくりを行いました。なお、清里校区の写真にあります木工のものづくりにつきましては、中逸町長にもご指導いただいておりますが、六栄校区、

長洲校区の活動でも参加していただいております。清里校区では、延べ約70人の参加が
あっております。

それぞれの校区で参加された児童は、さまざまな体験を通して交流を深めることができ
たと思っております。

また、今後の冬休み中の実施につきましては、お手元にまた別の縦長のチラシがホチキ
スどめであるかと思えます。今回も、本日ご出席の辻様ですとか、町民会議の皆様をは
じめ地域のさまざまな皆様のご協力をいただきながら、4校区とも、この季節ならではの
催しなどを取り入れて計画しております。

なお、チラシにつきましては、今週中に各小学校を經由して児童の皆さんに配付し、参
加を募りたいと思っておりますので、各小学校の先生方にはご協力のほどよろしくお願
いいたします。

以上、ご説明いたしました二つの事業によりまして、公民館や介護予防拠点施設を地域
の学習及び交流の拠点として位置づけまして、今後、ますます地域住民の皆様と協力、支
援体制を充実させ、地域で子供を育てる体制づくりをますます進めてまいりたいと思っ
ております。

これで私からの説明を終わらせていただきます。協議・調整のほどよろしくお願
いいたします。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございました。

それでは、今、寺子屋塾を実施しております腹赤小学校の高森校長先生に、寺子屋塾が
始まってあらわれた影響、そういうご意見をいただきたいと思えます。先生、よろしくお
願いいたします。

【高森腹赤小学校長】 おはようございます。高森です。寺子屋塾という議題になった
ときに、まとめて言わなにかなと思って考えておりました。幾つか、かいつまんで説明
を申し上げます。

まず、学校の立場からいきまして、1点目です。学校運営上の支障は全くありません。
これが1点目ですね。通常の学校運営を行いながら寺子屋塾は運営されていると。

2点目です。寺子屋塾の参加者につきましては、今、概要がありましたけど、もう少し
詳しく説明を申し上げます。

全体の人数は、今言いましたように31名です。本校は4年生以上が93名ですので、
約33%の子供が参加をしております。内訳ですけれども、4年生が6名、5年生が9名、

6年生が16名です。4年生の学級数は全体で33ですから33分の6、5年生が28分の9、6年生が32分の16です。

学力の子供たちのもう少し突っ込んだところの状況ですけれども、基礎学力の定着に努力を要する児童が、うち14名、おおむね定着しているであろうと思われる児童が14名、そして学力が高いんじゃないかと、概ね学力が高い児童が3名おります。

寺子屋塾と学校全体の放課後等の補充指導の関係ですけれども、学校では火曜日、水曜日、金曜日を放課後等の補充指導の時間としてとっております。寺子屋塾は木曜日にありますから、そこと関連させながら、週4回、放課後等の時間を活用して補充指導を行っております。

寺子屋塾に参加している子供たちの人数等につきましては説明しましたが、もう少し説明を申し上げますと、4年生は、男子は基礎学力の定着に努力を要する児童が数名利用しております。5年生は、おおむね基礎学力の向上など、寺子屋塾を活用してほしい児童が活用をしております。中には別の学習塾に通っていて、さらに寺子屋塾を活用している児童もおります。6年生は、経済的な配慮などでほかの塾には行けない児童も活用をしております。また、基礎学力の定着が望まれる児童も複数おります。さらに、ほかの塾に通っていて学力の高い児童もおります。さまざまな子供たちが活用をしております。

保護者のアンケートを私は見せていただきましたが、基礎学力の伸びに対して効果があったと言われた保護者が8名、それから、あまり変わらないという保護者は7名答えておられます。これは、具体的に保護者の方の確認をしたわけではありませんので、今いる子供たちの参加状況から推測をするに、参加児童の内訳により、基礎学力の定着に努力を要する児童の保護者は効果があったと答えられたのではないかと推測をされます。おおむね定着をしている、あるいは学力が高い児童の保護者は、基礎学力の伸びに関してはあまり変わらないという答えをされたのかもしれませんが、そういうふうに、子供たちの実態に応じて保護者の方がさまざまに答えられたのではないかなという推測をします。

学力は、効果的な授業、補充指導、それから家庭学習など、総合的な取り組みを継続的に積み重ねていくことによって定着をしていきます。週1回の寺子屋塾の影響が学力の向上等にどのような影響を及ぼしているかは、すぐにはなかなか判断できませんけれども、担任等の話を総合しながら三つの点をまとめさせていただきました。

効果としまして1点目ですが、参加している児童は、みずからの学力の向上に対して前向きな児童と捉えることができた。したがって、学習意欲や習慣化を図ることができてい

るのではないかなということが1点目です。

それから2点目は、これは見方はいろいろあって、学習低下の下支えにはなっているということを担任がしっかり言うておりました。寺子屋塾に通っている児童で成績が下がった児童は少ないということで、下支えにはしっかりなっているんだということでした。

3点目は、放課後の広い意味で居場所づくりの一つになっておりますし、子供たちも目的意識を持ってその場に参加をしているということで、そういう3点の捉え方を今現在ではしております。

以上です。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございます。

今日は、寺子屋とふるさと塾、最初に一括してお話をさせていただいて、その後でふるさと塾に関するご意見、そして寺子屋に関するご意見、このように整理していきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

それでは、今ふるさと塾について、講師としてもご活躍いただいている木下委員から、実際に講師として子供たちの前に立って、何か感じていらっしゃるご意見などございましたらお願いいたします。

【木下委員】 それでは失礼します。昨年度、今年度の2回、夏のほうでふるさと塾をやっています。それから昨年度の冬に1回ということで、本年度も一応計画段階であります。

課長さんのほうから説明がありました目的とか実施の状況については、このような形です。長洲校区のほうで、私の担当しているところが主になるかと思いますが、子供たちは主に学童保育のほうです。1年生から3年生の低学年の子供たちが参加されております。したがって、内容もその子供たちができる内容をやっております。

私のほうから、最初のうち、宿題をやったり、科学遊びでスライムづくりをしてスライムで遊びました。それから、迦統さんがおいでになっておりますが、長洲海岸のお隣がラムサール条約で干潟で野鳥の観察をされておまして、長洲には野鳥の専門家の迦統さんがおいででしたので、長洲海岸で観察をお願いしようかということで、これは夏も冬もやっております。今年もやっておりますが、夏の観察はあまり適当ではないとも聞きました。それから海岸の場合は干満の差がありますので、詳しくは迦統さんがおっしゃいますが、鳥は干潮のときは遠くにおるから見えにくいということで、このあたりは配慮が要るかなと。今年、六栄のひまわり幼稚園のところに池がありますが、そっちのほうを回りました。

た。それから、今年の夏は荒尾海岸のほうでもやっております。

それから、私のところは地元の有明海の海岸のところですので、やっぱりそのことをいっぱい子供たちに体験させようということで、水遊びなり海岸での泥遊びなり、そういうのも考えましたが、夏の暑いところで、ある程度海岸に出て熱中症に注意しながら遊んでまいりました。子供たちは非常にそういうのは好きです。時間は1時間で帰ろうと思いますが、なかなか帰ってくれません。そんな中でしております。

それから、水遊びも海岸でと思ひまして、長洲のところは海水で泳がせるのに適当かどうかわかりませんでしたので、隣の岱明町の鍋海岸を使いました。あそこは海水浴ができる場所だったので、そこに連れてまいりました。同時に、あそこは監視員の方がおられますので、そこに紛れ込んで、深いところに行かないとか、この範囲で泳いでくれというようなどころでしたが、言ったより先には行かない。担当の松林さんが一番沖において子供たちをとめておりましたので。最後はずぶぬれになって子供たちは遊んでおりました。

それから、海岸でのいろいろな遊び、その後のスイカ割りなんかが出ております。それから、部屋の中での貝殻、マグネットづくり等は、松林さんと町長さんがおいでになって直接指導をいただいております。これはものづくりのほうでやっておられるところもありましたので、そのような形でやっております。それから、英語活動はNPOの熊本の中山さんのほうにお願いして、そこから寺子屋塾の指導者の方がおいでになって、子供たちと楽しい遊びができていました。

一つ、二つ、課題としてですが、長洲小学校から私の海岸までのところの引率が、途中2カ所ほど道路を横断しますので、配慮が要りました。これは、引率の先生方についてもらって誘導してもらいました。

それから、特別配慮を要する子供さんがおられたのですが、最初のうちはわかりませんでした。こういう子供さんについては、しょっちゅう接していない指導する立場のほうからすると、情報の共有化が必要ではないかなと。またその子にあった付き添いも必要かなと感じております。

それから、居場所づくりの件ですけど、地域で子供たちを育てるということを想定しますと、高齢者の方々がそこにおいでになって孫、子の面倒を見る、孫、子とお話をする、両方にメリットがあるんじゃないかなと。それから、今後のことですが、遅くまでやった場合には、地域にすぐ近くに帰れるようなシステムになるのかなと思っております。

それから、内容の工夫については、ここにたくさん活動例がありますので、これのネ

ットワーク化なり、あるいは、ものづくりのほうでいっぱいノウハウを持っておりまので、そういうところの連携も必要かなと思っております。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございます。今日は、事前に校長先生にアンケートについてお尋ねしております。事務局から説明をお願いいたします。

【事務局（長尾総務係長）】 事務局から説明を申し上げます。事前に、小中学校の校長先生にアンケートをとっていただいております。すみません、座って説明させていただきます。

2問ほどアンケートにお答えいただいております、1点目が学力や学習意欲の向上のためにということで——済みません、資料は一番最後の資料をごらんください。申しわけございません。「学力や学習意欲の向上のために、寺子屋塾に来てほしい児童、行ってほしい児童に参加してもらうにはどうすればよいとお考えでしょうか」ということでお聞きしております。

アンケートの答えを集約したものを申し上げますと、一つ目が「寺子屋塾を基礎学力が身につけていない児童のための塾という捉え方を保護者、児童がした場合に次のような反応が予想されます」と。一つ目が「公費で運営しているにもかかわらず、対象者を限定してよいのか」。二つ目が「寺子屋塾で学ぶことで勉強がわからない子というレッテルを張られるのではないか」ということで、したがって、以下のような対応をとられたらいいということでご意見をいただいております。「寺子屋塾は、対象者を絞ることなく、ある学年以上の児童を公平に募集し、基礎学力の定着に努力を要する児童については、家庭の事情等に詳しい学級担任等が、家庭訪問のときなどに寺子屋塾の活用について保護者や児童に話をしていくことが効果的だと思う」ということでございました。

二つ目のご意見が「寺子屋塾の意味や位置づけ等をさらに保護者や学校関係者へ周知いただければ」ということでございました。

三つ目が、「中学校は学校独自でテスト前や放課後、長期休業日等を利用して学習会等を行っています」と。「しかし、もっと生徒のニーズ等にあった学習会ができないか考えています。他地域で取り組みができないか検討していただければと考えます。例は次のとおりです」としてあります。例を申し上げますと、「中3の生徒を対象に、6月の中体連大会後、放課後に塾に通っていない低学力の生徒を対象にして週に3日、学校で90分～120分程度、英語と数学を中心に外部の講師が学習支援をする」と。

二つ目が「生徒一人一人に応じて中1～中3までの復習をする場合は、タブレット等の

機器を利用して、まず自学をし、それを講師が支援するという学習形態が効果が上がるのではないか」ということをご意見をいただいております。

裏面にいっていただきまして、四つ目のご意見でございます。「本年度の活動から、子供たちに見られる成果、保護者の感想、学校職員の感想、できれば成果を集約して、多くの保護者が集う場で啓発をする」と。

もう1点が、「教育委員会（学校教育・社会教育）及び福祉部局が連携し、子供たち及び保護者のニーズを把握する。そして、コーディネーターを配置して、指導者の確保を行いながら事業を拡大する必要がある」と。

最後に、「推進委員会、外部有識者を含めてというところで開催して検証し、事業の方向性を検討する」ということございました。

続きまして、二つ目の質問で、ふるさと塾についてですが、「ふるさと塾をよりよいものにしていくには、どういった内容を盛り込んでいけばよいか、改善点など、何かアイデアがあればご記入ください」ということでお聞きしております。

1点目が、「どのような内容が必要であるかは、一人一人の児童の実態が異なることや、問題もさまざまであるため、学校と連携しながら必要性の高い学習内容を精選する必要がある」と。「また、ニーズの把握や地域の素材、人材を豊富に確保しながら、推進委員会の検討を重ねながら進めることがよいと思う」と。「やはり啓発をしっかりする必要があると考える」ということでございます。

二つ目が、「先行実施している地域があれば、その視察をしてみたい」ということです。

三つ目、「面白実験等の協力ができます」ということでございます。「昨年度は梅田地区のみでしたが、期日や午前・午後の時間差があれば、ほかの地域でもできるかな」ということでございます。

四つ目が、「夏季休業日、冬季休業中の子供を地域で育ていく拠点としまして、ふるさと塾を活用できないかと思えます」。また、「各学校のコミュニティスクールの協議の場で話し合い、講師や内容を検討していく方法もあるかと思えます」「毎年テーマを決めて、例えば、英語活動であったり海や山等の体験活動であったりと、その年は継続的に一つの活動をしていくこともあっていいのかなと思えます」と。最後に、「宿泊を伴う研修や活動も可能ならば検討していいのではと思えます」ということをご意見をいただいております。

ご協力ありがとうございました。終わります。

【議長（中逸町長）】 今日、7人のアドバイザーの皆様が来ていらっしゃいます。限

られた時間でありますので、二、三分以内でいろんな、もしお考えがありましたら、順次、藤末PTA連合会の会長さんのほうから、何か思いがあったら聞かせていただきたいなと思っております。よろしくお願いいたします。

【藤末長洲町PTA連合会会長】 長洲町PTA連合会の藤末でございます。よろしくお願いいたします。

私は、腹赤小のPTA会長ということで、実際行われている寺子屋塾のほうの地元ということでございますけれども、校長先生が言われた学習意欲・習慣、学習の下支え、それと居場所づくりということで、私がこの3点の中で一番大事なのは、居場所づくりだと思っています。

居場所。今、学校が終わって部活なり何なりをしない子供たちがどこに行っているんだろうか。私のところでもそうでございます。両親がおりませんので、その間、どうしているかということ。おじいちゃん、おばあちゃんがおられるご家庭もあるかと思っておりますけれども、その時間をどのように有効に使うか。遊ぶのも大事だと思っております。その中で自分の生活リズムなり目的意識を持つ、時間を有効に使うというところで、何らか、そこでめり張りがつく、居場所があると、場所があるということはすごく貴重で感謝しております。

それと、ふるさと塾ということで、今、季節のそのときどきの行事とか何かを肌で感じるものがなかなかないということが、実際、私どももそうですけれども、あります。テレビとか何とかで、今の時期はこれなんだよということをお子孫たちに説明しても、なかなかぴんと来ないという現状もありますので、こういう季節、この冬休みということでお節とか門松とかいろいろあると思っておりますけれども、そういう四季折々の行事というのをこういうふうに地元の方——私も53になりますけれども、なかなかそういう行事とか何とかの由来なり、やり方なりというのを子供に伝えていくのも、はっきり言ってできておりません。その中で、地域の方々にこういう行事を教えていただく、旬というのが何かというのを子供たちに伝えていくというのがすごく貴重な取り組みであって、今後、もっと重要になることだと考えていますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございます。

それでは、子供会連合会の高松会長、よろしくお願いいたします。

【高松長洲町子供会連合会会長】 おはようございます。子供会連合会会長の高松です。

まず寺子屋につきましては、今、藤末会長が言われたとおり、私も居場所づくりという
ことで思っております。それにより学力が向上していけばいいのかなというふうに思いま
す。ただ、これは一保護者、OBとしての意見ですので、現状の保護者の方は学力をもっ
と上げてくれよと言われる方が多いかとは思いますが、その辺は、これから保護者の方と
また話していただければと思います。

もう1点、ふるさと塾に関しましては、済みません、先に資料に目を通したんですけれ
ども、12月は23日、私の情報が不確かでなければ、これ、ものづくりのほうも門松づ
くり、また町民会議のほうも門松づくり、ミニ門松ですね。これが、この日にかぶってい
ると思います。あと各学校で各行事があります。もしも23日はそういうふうな1日にす
るのであるならば、もう少し情報を共有化して、例えばものづくりの日だよとか、長洲町
ものづくりデーとか、そういうふうな形でできたらどうかなと思います。

以上です。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございます。

それでは、今度、学童保育の主任である上田さん、お願いいたします。

【上田学童保育主任】 こんにちは。六栄学童の上田です。よろしくお願いします。

ふるさと塾は、27年度は門松づくりとか、落語体験とか、日ごろできないことをして、
とても子供たちが喜んでいました。28年、今年の夏は、スイカ割りとかパステルアート
とか、ほんとうに日ごろできない、流しそうめんも公園のほうに出て竹を切って流してし
てもらったととても喜んで帰ってきました。

ただ一つ、27年は私たちが送迎ができたんですけれども、今年の夏はちょっと送迎が
できなくて、4年生、5年生の参加だったので、送って行って渡して、その場にはもう付
くことができなくて、またお迎えに行く形だったんですが、ちょっと行き違いがあって、
子供たちだけ残るという形もあったので、よかったら、ふるさと塾の関係者の方というの
がわかるような名札をしていただいたら私たちも助かるかなという思いがありました。

学習面では、学校の先生方が見えて、日ごろ学童では宿題もなかなかしないんですけど、
塾に行ったときはちゃんと教えてもらって、指導もしてもらって、とても子供たちは喜ん
でいます。また夏休み、終わったときは、今年もまた冬休みにふるさと塾がありますかと
子供はとても楽しみにしていて、今回、またありますので、とても喜んでおります。あり
がとうございます。

【議長（中逸町長）】 それでは、次に、放課後子ども教室のコーディネーターの増村さ

ん、お願いいたします。

【増村放課後子ども教室コーディネーター】 長洲小きんぎょクラブのコーディネーターをしております増村と申します。

ながす寺子屋塾に関して思ったのは、子供たちは、勉強がわかるというのが学校が楽しくなる第一の基礎だと思うので、基礎学力に努力を要する子は学校の先生方からこの子のこういうところを特に指導してほしいというような、学校と塾との情報共有はどういうふうに、科目別にできないか。私は実情を知らないのだからわからないんですが、そういうのができたらもっといいんじゃないかなと思いました。

それから、ふるさと塾に対しては、児童館行事と似たようなところがあるので、各校区に分かれているのでより子供たちには密着してできるのかとも思いますが、児童館行事に対して何かうまくできないかなと思ったところです。

以上です。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございます。

それでは、先生の立場から迦統さん、よろしくお願いいたします。

【迦統日本野鳥の会会員】 こんにちは。永方の迦統と申します。私は、最初に申し上げておきますけれども、先生でもなく、鳥の専門家でもありません。鳥に関しては、46年前に遠くから嫁いできまして、ほんとうにどういうふうにしたらいいんだろうかと、お友達もいなくて、寂しい思いをしていたときに、自分の裏庭の大きなクスノキに鳥がとてもたくさんとまっていたんですね。はっと思って、この鳥たちと一緒に過ごせば何か開けてくるんじゃないかなというその感動、それが、今日に至ったんです。

それから先ずっと、今は取り上げられていますラムサールの荒尾干潟に行きますと、ものすごくたくさんの鳥が春、秋に飛んできて、変わった鳥やら小さな鳥やら、それが遠いところから旅をしてくるんです。そういう感動を子供たちに与えたいと。私は皆さんよりは少しは、40年近く鳥を見ているので、鳥をものすごくいろいろ、——特に海の鳥なんか、繁殖期では尾っぽがなくなったり、色が変わったり、難しいんです。だから、そんなに先生と指導というんじゃなくて、こんな鳥がいるんだよ、この鳥はこんな特徴があるんだよということをみんなと一緒に学びたいということで。それでずっと野鳥の会にいます。

こないだ、野鳥の会の雑誌にうちの会長の柳生博と相国寺の管長の有馬さんという方が話していらして、野鳥を見るときは一心不乱に見る。煩惱の入る余地がないと。そういう

ところに私は引かれて、子供たちにもう少しそういう気持ちを持ってもらいたいと。そして、できるなら、この中で何人かの子供たちがそういうのにすごく関心を持ってくれたらいいなということで。野鳥の会のあれは多岐にわたっているんですけども、ただ単に鳥を見っ放しというんじゃなくて、やっぱり子供たちにルールを守ったりというようなこともちゃんと注意して教えていくというのを指導されております。

そういうことで、それからちょっとつけ加えたいのは、長洲町は、皆さんはふだんの生活の中でスズメとカラスとハトぐらいの感じでしょうけれども、金魚と鯉の郷で年に2回、6月と11月、2003年からずっとですから、データがあるだけでも13年分のデータの中で——1回は2時間なんです。たった2時間でずっと集計しますと、73種類の鳥がおります。ただ金魚と鯉の郷だけでおるんです。

で、今おっしゃいました大堤池といって六栄のひまわり幼稚園の向こうにちょっと大きな池があります。そこにはラムサール条約で、この鳥がいるからクリアされたというクロツラヘラサギが、去年も今年も来ました。ほかにもコウノトリやいろんな珍しい鳥が来ますので、そういうことに少し関心を持つと、また人生が違った方向に見えるんじゃないかなというのを、別にこれがすぐに学力の向上につながるとか、そういうことは期待されても困りますが、一人でもそういう関心を持ってもらえたらいいかなと思って。

それで、去年の夏、冬、今年の夏、磯町ですね。させていただきましたけれども、みんな、騒ぎもしないでよく聞いていただいたし、今年の夏は野外に行きましたけれども、別に事故に遭うようなこともなく、冬は防寒対策、夏は熱中症対策には気をつけたいと思っておりますが、そんなあれで、みんなと楽しみながらやりたいということを念頭に置いて活動させていただいております。

【議長（中逸町長）】 どうもありがとうございました。

では、次に、町民会議の会長の福田会長のほうからお願いいたします。

【福田長洲町青少年育成町民会議会長】 私は2点ほど。1点は、先ほど子供会の会長さんからあったように、情報交換がとても大事かなと思います。例えば、いろんなことが各校区で行われているのに、かかわらなければわからないというか、これはもっとどこかいい広報の仕方はないのか。で、子供たちは、またそれを見て、「あ、俺も行きたいな」とか「私も行きたいわ」とかという気持ちが起こるような広報の活動、それと保護者への、何か、わかるような手だてをもう少し広げたほうがいいのかなという気がします。

このチラシ1枚では、子供たちには行くけれども、なかなかどうかなというのがあります。

して、それは自分もPTAとかかかわってきて、だんだんだんだん年をとって還暦過ぎて、じじいになりまして、おじいちゃんになりますと、孫が10人おりまして、自分で今何ができるかなと思ったら、例えば、ギョーザをつくるときに孫に1個、2個つくらせるとか、餅つきするからおいでとか、そのくらいはできるけど、もっともっといろいろなことがあるよというのが一つ。それをこういうふるさと塾なんかではできるなというのが一つ。

もう1点は、文化協会とまたかかわりを持たせてもらっているんですが、長洲にはいろんな能力を持った人が多いぞという気がしています。この能力を活用せんことにはと思っています。非常に絵に対してもいろんな能力を持たれている方がおられますね。その人たちをこのふるさと塾ではもっと活用できるようなもの、今は人材の登録ができていますけれども、もっと具体的に使っていくような対策があってもいいのかなという気がいたします。

その2点です。以上です。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございます。

それでは、駐在員会の会長の土山会長からお願いいたします。

【土山長洲町駐在員会会長】 先ほど、寺子屋塾とふるさと塾の現在の報告がありましたけれども、その中で、共通というか、効果と今後の道しるべということで居場所づくりというのがありました。寺子屋では効果が居場所づくりがあると。ふるさと塾のほうでは、今後、こういった居場所づくりをするための地域と自宅と学校との流れをつくったらというような話があったんですけども、梅田公民館で、介護予防で週1、月曜日にロコモ体操を毎週しています。

今年、清里小学校の4年生が15名と教員の方が3名引率されて、3回ほど一緒にしたんですけども、子供は子供のあれがあって、高齢者のほうは、もう来んとかいという話が出たんですよ。で、今、核家族化で、なかなか若い親がわからない部分とか知らない部分を、地域の高齢者を活用して子供に知らせるとか、逆に高齢者の生きがいつくりにも何とかなるんじゃないかというような気がしていました。ですから、今幾つか出てきたんですけども、例えば、寺子屋、ふるさと塾、それから放課後子ども教室、学童保育ですかね。いろいろありますけれども、親の方が理解して、うちは学童保育に行くとか、ふるさと塾にやるとか、そういったのが先ほど出たように、情報を共有できるような啓発も必要かなという気はしております。

ですから、ふるさと塾に関しては、地域の高齢者の活用を今後して、夏休み期間中だけ

ではなく、例えば放課後、それから学校の先生の研修の日とかに合わせた開催もいいのかというような気はしております。

以上です。

【議長（中逸町長）】 どうもありがとうございました。さまざまなアドバイスを皆さんから、ご意見を出してもらいました。それでは、委員の皆さんとの意見交換会に入らせていただこうと思います。何か委員の皆さん、ありましたらよろしく願いいたします。

まず大山委員のほうから、お願いします。

【大山委員】 大山です。今、いろんな方からの情報、あるいはお考えを聞かせていただいて大変勉強になりました。ふるさと塾に関しては、非常に町の教育目標の「ふるさとを愛し」というのがトップに来ておりますので、そういうふるさと塾でいろんな土地のとか地域のもを子供たちにさせるというか、見せると。非常に目的にかなっているというか、非常にいいことだと思っております。

ただ、ふるさと塾を今世話しているのが、学校教育課であっているんですけども、それにもものすごく手が要って、本来というか、やらなければならない仕事に手が回っていないとかいうことも、私のほうからは感じられているというのがありますので、今ふるさと塾について、長洲小は木下先生が中心になってかなり面倒を見ておられるんですけども、そういう方々を地域のほうで見つけていくというか、そういうことをしないと、なかなか事務局のほうが大変じゃないかなという気がしております。

そういう意味では、これからコミュニティスクールというのを強くしていこうと思っておりますので、その中で、その地域、学校、運営協議会というところの中で、そういうふうな地域と子供のつながりをもっともっと議論して強くしていけたらなと思っております。

それから、寺子屋塾については、本来の目的で最初に出てきたのが、貧困の連鎖を断ち切るというふうなことと、もう一つは、全国学力とかで全国平均よりも上の成績を町としてはとりたいということもあって、学力の足りない子供たちには手を入れて、上のほうに少しでも追いつかせたいという気持ちで始めておりますので、中心はやっぱりそういうのがあるかなと思っておりますけれども、そういうふうな規定してしまうと、何ですか、差別とか、そういうことにもかかわってくるから、その部分はちょっと難しいなということで、いろいろ考えて、これから先、来年度に向けて考えていきたいなと思っております。ありがとうございました。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございました。

木下委員、何か、もしありましたら、今後の展開等について。

【木下委員】 はい、わかりました。

幾つか今日それぞれ出たと思います。まず第1点は、いろんな活動があっていると思うんですが、それが体系化、組織化、見えるような形で行われていない。具体的に土山さんもいろんなことをおっしゃいました。それから、行事の日程の調整も、本来は4月段階で町のほうでも行事が出ます。各学校、教育委員会も年間の計画は持っております。調整すると11月23日のような事態は起こらないと思いますので、そういう形で進めていくことが必要なと。

それから、考え方ですが、本来、放課後といいますが、学校が終わった後、子供たちをどう過ごさせたらいいか、どういうあり方があるのかというのを一つ大きな形で持っておかなければ、結果的にはばらばらになってしまっているような形と思います。そこで、昔、私たちがやっておった本来の遊びとか、いろんな社会とか家庭とか子供たち同士で学習したり力をつけたりしているようなことがありましたので、そういうものをどこかで復活する必要があるのかなと。特にスポーツ面で、スポーツクラブですか、との関連において、今の子供たちの小さいときの体験が土台になっているはずですので、そのあたりのことも検討していかなければならないのかなと思います。

【議長（中逸町長）】 それでは田中委員、お願いいたします。

【田中委員】 今後の展開ということで、今、アドバイザーの方にいろいろご意見いただいたことが、ほんとうにごもつともだなという感想です。寺子屋も、たしかスタートは20人弱の人数だったんですね。で、やはりこの1枚のチラシだけでは最初はそのぐらいなのかなという印象で、あとは親御さんたち同士で話していいよとか、先生方の声かけがどれほどあったのかというのを私は存じないんですけども、その辺でじわじわ今の人数になってきたというところもあるので、やはり周知徹底は大事だなというところは思っております。

あと、ふるさと塾に関しては、私は放課後教室のコーディネーターもしておりますので、内容も似たようなというか、地域の方を呼んでさまざまな体験をさせる安心安全な居場所づくりという目的でしておりますので、全部、内容のお手伝いとかできる部分とかあるんじゃないかなと思っていました。人材バンクであったり学校支援のほうのコーディネーターであったり、私たちのコーディネーターであったりというところで、地域の方の人材の情報とかもまだ共有できていない部分があるなというところを感じております。

学校でも、実際そうやって地域の方の活動とかもしておられるところなので、そこは何か連携の方法を考えなければいけないなというのはほんとうに実感です。

それから、ふるさと塾というのは、私たちは放課後教室ではできないんですけれども、外に出かけられる、海とか。そういうのがほんとうに一番のメリットで、ここを重視してやっていってほしいなというのが私の思いです。

あと、何だったかな。1個、言いたいのがあったのに何だったけな。だから、まあ、ふるさとのことだったので、先生方にもちょっと見に来ていただいて、こういうことをやっているよというのを見ていただいたら、学校教育にも反映できないかなという部分もあります。

あと、子供会活動だ。子供会活動もやっておりまして、そのときに、子供たちって悔しくて涙を流したりという経験が、学校よりもそっちの、何というか、放課後の活動というか、学校以外の活動で心を動かす経験というのが多いなというのが、私の子供に対する今育てているときの実感です。だから、今後の居場所づくりというのは、地域の方とどういう子供を育てたいかという話をもっともっと、もっともっと訴えたいというのが今の私の感想です。

以上です。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございます。

それでは、松本教育長、よろしく願いいたします。

【松本教育長】 いろいろな意見ありがとうございました。

私も磯の館の鳥の話。そのときに行って、感動しました。堤防をずっと荒尾までジョギングしたりして、鳥を見るんですね。荒尾のほうに行くと看板があって、鳥の名前とか書いてあるんですけれども、なかなか鳥の名前は入ってきませんが、すごいなというふうにならなうなって勉強したところ。そういったことにも触れ合うことが子供たちはできますので、ほんとうにありがたいと思いました。

学校は、地域のいろんなものをちょっと取り入れて子供たちに紹介するというのが今までではなかったかなと。これからといいますか、長洲町はふるさとの勉強は公民館あたりでしていく。だから、学校はそれを、どんなことをされているので学校はこんなことをしようというすみ分けをしていくと、より効果的かなと今思いました。

それを調整する、何といいますか、会議みたいなのが、組織みたいなのが要るのかなと思ったところです。

長洲ふるさと塾は、この振興基本計画の中にちゃんと位置づけております。寺子屋のほうはこの後に来ましたので位置づけていないので、そのあたりをきちんと位置づけて、色をはっきりとしていく。だんだんと同じようになっていくといけませんので、はっきりすることが必要なのかなと思ったところです。

今日、いただいた意見を取り入れて、計画づくり、あるいは学校のほうにいろいろ行ったりしていきたいと思えます。ありがとうございました。

【議長(中逸町長)】 それでは、私のほうの考えというのは、まずふるさと塾について、みんなが交通事故が心配だというご意見をいただいて、またそういうのをクリアするためには、六栄だったら2カ所ぐらいでやっていくとか、長洲の上区、下区ということでやっていくとか、清里は建浜とかそういうところを交代交代やっていくとか、そういう交通事故や帰りに何か事件に遭わないとかいうためにも、場所を増やしていくというのが、これからの仕事かなと。

しかし、場所を増やすにはやっぱり人材が必要になります。ここを何とか皆さんで、教育委員会を中心にうちの行政部局と一緒に考えて、そういった二つくらいに、六栄なんかほんとうに分けたほうがいいなど。学童保育も分けてできないかと考えているんですよ。ほんとうは1区1学童保育をやれば、歩いて3分ぐらいで自分の家まで帰れるんですよ。将来的にはこういうものを目指して私はいきたいなど思っているんです。学童保育の場所を、介護予防拠点をフル活用して、エアコンもついてますし、こういうところで。そうしたら、迎えもすぐ、お母さん方もどここの大明神の公民館だったら歩いて5分でいけますし、梅田も行けます。そういうのを目指していければいいなど。ただそこには人材が必要であります。こういうのを育てていくのがこれからの課題かなと思えます。

今、委員の皆さんにお聞きしましたが、今日、せっかく校長先生、アドバイザーがお見えになっております。今後の展開について、何か言いたいことがあれば、ぜひ聞かせてください。お願いいたします。

何でも結構です。校長先生、何かありませんか。ほんとうは寺子屋については、もう少し先生方と中身を詰めていかなくってはなりません。高森先生から、どういう人たちを、一貧困の連鎖といっても、なかなかそこを断ち切る施策にまだまだなっていない。また、どういう人を寺子屋に呼ぶか、こういう課題もたくさん残っております。こういうのは、もう一回、教育委員の皆さんと校長先生で中身を詰めてください。そして、来年度の当初予算に上げて、骨格までかどうかわかりませんが、こういうのを大山委員の

ほうから全学校でやったほうがいいだろうというご意見もいただいております。そういう意味で、もう少し先生方でこの中身を詰めていっていただきたいと思います。そういう意味で、講師が誰かという部分も含めて、寺子屋のほうは再度、教育委員会と詰めていただければと思います。

今後のふるさと塾、寺子屋について、アドバイザーの皆さん、校長先生、ほんとうに忌憚のないご意見を聞かせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

【高森腹赤小学校長】 それでは、僕のほうから先に言っていいですか。

【議長（中逸町長）】 はい。

【高森腹赤小学校長】 私が少ししゃべった後、全部しゃべってください。(笑)

1年間、腹赤小学校の寺子屋塾をさせていただいて、ほんとうに感謝をしております。それから、これから、今、木下先生もおっしゃったように、学校は学校の中で閉じていく教育ではなくて、地域の人たち、保護者の方々と、一緒にという言葉はあれですけども、それぞれのよさを活用しながら子供を伸ばしていく。子供は、学校、地域、家庭で過ごしますので、それぞれの顔を見せるとは思いますけれども、それぞれの体験をしながら、総合的に成長していくということを前提に、寺子屋塾をするに当たって、今、教育長さんもおっしゃったように寺子屋塾でこういうことをするから学校ではこういうことをするんだという、総合的に考えていく必要があるのかなと思います。

寺子屋塾で基礎的な学習をするということを前提とすれば、学校ではその補習指導をどう組み込んでいくのかということも踏まえながら、もう少し具体的に詰めて、来年度に向けていけばいいかなと思っております。ありがとうございました。

【議長（中逸町長）】 福島先生、どうですか。

【福島腹栄中学校長】 木下先生から意見が出たように、地域と子供のつながりを大切にしていきたいということをお話し合っただけで、教育委員会のほうからもコミュニティスクールを進めていきたいという話があったんですけども、それにはとても賛成しています。

ただ現状を見ると、学校はさまざまな団体、組織から行事があるから出席を要請されたりしています。そこで、もっと子供を話し合いの中に参加してもらえないだろうかというふうな気持ちを持っています。例えば、長洲町をどういうふうにしていきたいのかとか、長洲町の町民の理想像とか、そういうものを子供の意見を聞きながら、その目指すものを長洲町で一つ、二つ、統一していく。町民はどうあるべきかとか、児童や生徒はどういうふうな生徒がいいのかということ、学校だけで、地域だけで決めていくんじゃなくて、

ここに参加していらっしゃる方や、それ以外の組織の代表の方に来ていただいて、しっかり協議をしていって、目指す方向性をきちんと定めて、それに基づいて、それを意識して、さまざまな団体が活動していくと。そして、活動の途中で最初集まったメンバーをもう一度呼んで、今までの取り組みはどうだったかねというふうなことを反省や成果を出し合いながら、意見交換をしていく。もちろん、その場には中学生も参加させていただきたいと。そして、1年間のサイクルの中で、最後には、もう一度行事を消化していく中で、この行事はどうだったとか子供たちに意見を聞いて、目指す子供たちとか町民像というのを共有していって、また来年につなげていくというサイクルができ上がるといいのかなと考えました。

以上です。

【議長（中逸町長）】 教育長、何か、その件に対して。今、福島先生が言われたのに対する町としての取り組みというのは、できますでしょうか。

【松本教育長】 中学生の意見をそれぞれ、二つの中学校には町長が出かけていって町の話をしておりますけれども、両方の生徒会あたりが、町の発展のために意見を言うという立場、場所というのはつくっていききたいなと思っておるところです。子供議会とかいう話もちよこっと出ておりますけれども、将来的にというか来年あたりに考えていきたいと思っています。

以上です。

【議長（中逸町長）】 もう一つ、情報の共有化というのがなかなかできていないんじゃないかというご意見がありました。この件に関して、学校教育課長、どうでしょうか。

【事務局（藤井学校教育課長）】 今回もまた、ふるさと塾の計画に当たって、なかなか、こちらもそれぞれで計画を立てている中で、ほかとの情報共有ができていなかった部分もあったかと思います。早目早目に行事等をほかの団体と、役場でも庁内の関係課との情報を共有しながら計画を今後とも進めてまいりたいと思います。若干、重なった部分もあったというご指摘をいただいておりますけれども、今後とも注意していきたいと思っております。

以上です。

【議長（中逸町長）】 僕のほうから提案があります。長洲町のホームページに、教育委員会のそういった行事を一目で見られるようなコンテンツをつくったらいかがでしょうか。そうしたら重複は、載せる場合に協議していけば。長洲町のホームページから学校まで入

るのが、ちょっと難しいんですよ。難しいとかややこしいんですよ。あそこに小学校全部、表につくっていくと。各小学校の行事とか、今わかりますよね。そういう、長洲町のホームページを見たら、そこに学校と教育委員会の。中身をもう少し精査しろと言っているんですよ。そういうのに取り組んでいかないと日にちが重なる。できるだけみんなが、今は携帯でも見られるわけですから、そういうのを活用しながら、情報の共有化を図っていく。こういうのを来年度からやります。

まちづくり課長、そういう意味で どうでしょうか。

【田成まちづくり課長】 私も各学校のを見ておりますが、中学校で検索すると入っていきます。今、町長からありましたように、町のホームページのトップ画面に各学校名を出せばできますので、すぐ……。

【議長（中逸町長）】 そうするとね、子供会やPTA、そういう情報、放課後児童教室、学童保育、町民会議と、こういうのを一緒にまとめたらどうかということです。行事スケジュール表に。

【事務局（藤井学校教育課長）】 一覧表ですか。

【議長（中逸町長）】 一覧表を作ったらどうでしょう。

【事務局（藤井学校教育課長）】 はい。

【田成まちづくり課長】 一覧表をつくっていきますので、その場合、情報の共有をどう図るかが。情報の発信は手段としてできますが、その情報をどう集約するかをやっぱり今、教育委員会は教育委員会で毎月校長会議がっておりますので、そういう場に私たちも参加して共有化を図っていきたいと思います。

【議長（中逸町長）】 私たちがいろいろな、金鯉まつりとか長洲のイベント、メインの行事、金魚を何とか見てもらいたいと。そういうときに、いろいろな行事と重なっている。これも我々も長洲の子供たちに見せたいというのがあるんですよ。自分の将来の夢で金魚屋になりたいとか、漁業をやりたい、農業をやりたい、これが僕の夢なんです。それで日本の長洲は変わってきているんです。水産業もものすごく変わってきているんです。こういうのも子供たちに見せたい。自分はアサリをもっともっと海に行ってとりたい、漁師になりたい、そういう子供を。で、所得がばんばん1,000万以上超えて。僕は漁師になりたい。そういう子供が一人でも二人でも出てきてくれればいいなと。そのために木下先生にお願いしてふるさと塾で長洲の干潟のそういう生物の勉強をさせてもらっているんですよ。

あとはアドバイザーの皆さん、その他、何かあったら、これを契機に、いい機会ですから、何でも結構でございますので、お願いいたします。何でもいいですよ。

【福田長洲町青少年育成町民会議会長】 ならいいですか。

【議長（中逸町長）】 はい。

【福田長洲町青少年育成町民会議会長】 気になっていることを一つだけ。こないだ、民生委員さんだったですかね、両中学校の生徒さんとの懇談会をやられたんですね。そこに私も参加したんですが、子供の声が小さい。聞こえないんですよ、何を言っているか。もごもごもごもごしゃべっていて。だから、先ほど、子供たちを表に出すとなったら、そういう子供たちを大きな声で言える子供たちをつくってください。どんなところでも、自分の声でぼーんと言えるような。そこで両中学校から10人ずつぐらいだったかな、来ていたんですけど、ほぼみんな小っちゃな声。休み時間に出すような声じゃなかったんで、どういところでそういう声が出せるような子にしてください。

【議長（中逸町長）】 そのために、向野とか大明神で落語のふるさと塾をやったんですよ。なかなか上がっている子供ははきはきとしゃべっている。そういうのにぜひ子供たちに参加してもらいたい。そういうのがあるんですよ。自分の思いを落語でしゃべっていく。そうしたら、人前に出てしゃべっていく。今回の英語教育もそうです。そういう意味で、大きい小さいは別にしろ、そういうのもあるというのをみんなで情報の共有をしていきたい。それで、各4校区のふるさと塾でそういう落語教室も開催して。そういう思いで落語教室は開催したんですけど。よろしくをお願いします。

はい、どうぞ。

【福島腹栄中学校長】 先ほどの一件に関してなんですけれども、確かに子供の声が小さいだろうなというふうに予想します。それはまず自分自身に自信を持っていないという部分が一つ。それからもう一つは、そういうふうな場面を経験したことが少ない。この二つだろうと思います。

それで、うちもそのことは反省をして、学校の中でできるだけ子供が活躍する場を数多くつくろう。で、生徒の目の前でどんどんどん自分の意見を言える、表現できる生徒をつくっていこう。そうすると、徐々に子供たちは、自分自身に自信を持って積極的に活動してくれるんじゃないかということを、本年度、全部の職員で考えて取り組むようになってきているところです。

そういうところを地域の方や団体、いろいろな組織の方に紹介するとともに、そういう

子供をつくるための協力をさまざまな機会ですていただけるとありがたいなと強く思います。

以上です。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございます。

【福田長洲町青少年育成町民会議会長】 補足します。ごめんなさい、一つだけ。立志式の子供たちはよく質問してくれます。だから、子供たちが何かを感じたときには出せると言うんです。立志式の子供たちにほんとうに来てもらいたいんだけど、子供たちは質問を幾つもします。あの態度はすごいなと思っております。とてもすごいなと思っています。

【議長（中逸町長）】 そのほか、何でも結構ですから、先生の立場としても言っていたいて結構です。

はい、木下委員、どうぞ。

【木下委員】 テーマは二つでしたけれども、内容は教育全般ですよ。それで、学校から反論がないので反論しますけれども、学校は目いっぱいなんですよ。それで、あまりにも学校への要請が多過ぎます。これは、教育の氷山の一角であって、一部が教育課程なり学校の学級経営なり、いろんな計画は全体的に網羅してあると私は思っております。

でも、小さい事柄については、もう学校では無理なんです。家庭教育や社会の地域の教育力がもっと強化しなければ、学校は、学力充実から生徒指導からいろんな問題を、現代的な課題も含めて、将来を見据えた上で、計画が綿密に出されて、1時間も余裕がないほど中身を消化されている。そういう現状だということをもっと訴えなければならぬのかなと思います。

同時に、そこにサポートやいろんなのが要りますので、コミュニティスクールを含めて、今回は人材バンクがまた、4回目の登録になるかと思いますが、支援事業を含めて進めていく。そういう全体——本日はそういう意味では総合教育会議ですので、結構大局的な話をしてありますが、もう一度、そういうもので整理するなり、見直しなり、体系づけるなりというようなことは必要になっていくだろうなと思います。

以上です。

【議長（中逸町長）】 ありがとうございました。

教育長、何かありますか。

【松本教育長】 特にございませぬ。

【議長（中逸町長）】 コーディネーターの皆さん、ほんとうに今日、こういう場を、総合教育会議というのはどういうものかというのをわかりになられたのかなと思いますので、ほんとうに些細なことでも結構です。教育全般のことでも結構です。こういうことをやってもらえば、ほんとうに長洲町の子供たちが健全育成やっていくんだなというのを、何かあったら、ほんとうにいい機会でありますので言っていただければありがたいなと思います。

今日、寺子屋、ふるさと塾以外のことでも結構であります。せっかく皆さん、お集まりになりましたから、何かそれぞれの団体からの要望等でも結構であります。何かありましたらお願いします。

委員の皆様、校長先生方から何かありませんか。よろしゅうございますか。

（「なし」の声あり）

【議長（中逸町長）】 それでは、今日はこの辺で終わりたいと思います。後は事務局、よろしくをお願いします。

【司会（杉浦総務課長補佐）】 それでは、次第4であります第4回総合教育会議について、事務局から連絡をお願いいたします。

【事務局（長尾総務係長）】 事務局のほうからご連絡いたします。次回、第4回の総合教育会議の日程と協議・調整事項についてご連絡いたします。

日程につきましては、1月下旬から2月上旬の間に開催を予定しているところでございます。

協議・調整事項につきましては、ただいま検討中ということになっておりますので、教育委員会の構成員の方からも何かございましたら、事務局のほうまで言っていただけたらと思っております。

事務局からは以上でございます。

【司会（杉浦総務課長補佐）】 ありがとうございます。

ほかに連絡事項等は事務局からありませんでしょうか。

（「なし」の声あり）

【田成まちづくり課長】 会長。

【議長（中逸町長）】 はい、どうぞ。

【田成まちづくり課長】 まちづくりの観点で町村制につきまして簡単に、子供の人口等の増加等について説明させていただきたいと思っております。

まず1点目が、六栄小校区にごございます宮野社宅についてでございます。現在、老朽化しましたので、来年度から建てかえを進めていくべき事務を進めさせていただきまして、議会のほうにも承認いただきまして、子育て世代が住むアパートを250戸整備する予定でございますので、また子供が増えてくると思っております。

次に、清里小学校に関しまして、今、駅の南側の開発を進めさせていただきまして、現在16区画の造成工事が終わりました、16区画の新しい住宅が建設されると考えております。それと、航送船道路から松岡自動車がありますけれども、あそこに5区画の開発が進められておりますし、駅の近くにアパートが20戸近く建つということで、これは全て清里校区のほうになりますので、新しい世代がまた入居するというので、清里小学校のほう、また長洲小学校のほうも子供の数が増えていくんじゃないかと思っているところでございます。

まちづくりの人口減少対策といたしまして、そういった取り組みをさせていただいておりますので、簡単ですけれどもご報告させていただきます。

【司会(杉浦総務課長補佐)】 ありがとうございます。ほかにありませんでしょうか。

(「なし」の声あり)

【司会(杉浦総務課長補佐)】 ないようですので、それでは、本日の会議は以上で終了となります。これで、平成28年度第3回長洲町総合教育会議を閉会いたします。皆様、ご協力ありがとうございました。